

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
京都府警察機動隊寄宿舎建築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.15	2.6	1.00	2.8
1.2 遮音				3.0	0.50	3.0	0.50	3.0
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				-	-	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				-	-	-	-	
2 温熱環境								
2.1 室温制御				2.0	0.35	3.2	1.00	2.5
1 室温				3.0	0.50	3.0	0.50	
2 外皮性能				3.0	0.38	3.0	0.38	
3 ソーン別制御性				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式				1.0	0.30	5.0	0.30	
全熱交換ユニットの採用								
3 光・視環境								
3.1 屋光利用				3.0	0.25	3.4	1.00	3.2
1 屋光率				4.2	0.30	3.5	0.30	
2 方位別開口				5.0	0.60	4.0	0.50	
3 屋光利用設備				-	-	3.0	0.30	
2 屋光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.30	
1 屋光制御				2.0	1.00	4.0	1.00	
上階バルコニーで庇を形成、カーテン設置の2種類でグレアを制御								
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				3.6	0.25	3.8	1.00	3.7
1 化学汚染物質				4.0	0.60	4.0	0.63	
天井裏を含めてF☆☆☆☆				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
居室面積の1/6以上の開閉可能な窓がある								
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御				-	-	-	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40	1.8	1.00	2.6
1 広さ・収納性				3.0	0.40	1.0	0.60	
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
●大切 D(独自基準)								
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)				-	-	3.0	0.50	
●とも C(独自加点)								
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
●自然 D(独自基準)								
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50	-	-	
評価する取組み6つ								
評価する取組み8つ								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.30	-	-	3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
●大切 A(全国版準用)								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
主な用途上位3種のうち2種以上にB以上を使用								

2.4 信頼性					3.0	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備			非常用の発電装置、受電設備の二重化を行っている	4.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				2.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.0	0.30	3.2	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり							3.4	0.50	
1	階高のゆとり			住居部分の階高は3.00m以上である			5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)				1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)						0.30			3.6
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	伝統的建造物保存地区、歴史的修景地区等、様式が定められた地区にあり、基準に適合している	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30			3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも 自然	A'(全国版準用)	玄関前にピロティ・庇を計画し、各階廊下は東西と中央部に	4.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性									3.5
LR1 エネルギー						0.40			3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	0.20			3.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		2.0	0.10			2.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.80	5.0	0.50			5.0
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価									
4.1	モニタリング								
4.2	運用管理体制				3.0				
集合住宅の評価					3.0	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル						0.30			3.5
1 水資源保護					3.4	0.20			3.4
1.1 節水				節水型便器を採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	1.00			
2	雑排水等利用システム導入の有無								
2 非再生性資源の使用量削減					3.7	0.60			3.7
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	7つの項目でグリーン購入法のリサイクル材を使用している	5.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	LGS壁により躯体と内装材・設備が分別可能である	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70			
1	消火剤								
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境						0.30			3.1
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出率:89%	3.4	0.33			3.4
2 地域環境への配慮					3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減								
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.33			
3	交通負荷抑制			管理者用・荷捌き用車両スペースを確保している	5.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33			
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	1.00			
2	振動								
3	悪臭								
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制								
3	日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.7	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物照明を行っていない	4.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素量削減に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる